

日本原子力学会 2009年春の年会（東京工業大学 大岡山キャンパス）

特別報告会 [一般公開]

「柏崎刈羽の復旧と地震安全ロードマップ中間報告」

（3月25日（水）12:30～14:30, G会場）座長（日本原子力学会）辻倉 米蔵

【プログラム】

司会（日本原子力学会）宮野 廣

開会あいさつ 「地震安全に関する日本原子力学会の活動」

（日本原子力学会）辻倉 米蔵

第1部 地震安全ロードマップ中間報告

（1）地震安全確保の考え方

（東京大学）大橋 弘忠

（2）地震安全ロードマップ中間報告について

（東京大学）関村 直人

－質疑－

第2部 柏崎刈羽の復旧と国の対応状況

（1）柏崎刈羽原子力発電所の状況について

（東京電力）山下 和彦

（2）原子力安全・保安院の対応状況

（原子力安全・保安院）神田 忠雄

（3）原子力安全委員会の対応状況

（原子力安全委員会）中桐 滋

まとめ

（日本原子力学会）辻倉 米蔵

【概要】

新潟県中越沖地震により被害を受けた柏崎刈羽原子力発電所では、現在、復旧に向けた活動が順調に進み、7号機の再起動の準備も始まっている。また、国においても他の原子力発電所の耐震安全性の評価や設備健全性の評価などの安全確保のための取り組みが引き続き行われている。

原子力学会では、一昨年12月に原子力発電所地震安全特別専門委員会を設置し活動を行っている。現在、原子力発電所の地震安全に関する基本的考え方について深層防護と不確かさに着目した整理を行い、その考え方にに基づき、研究開発や課題解決に向けてロードマップの作成に取り組んでいる。

今回は、原子力学会の地震安全特別専門委員会における、地震安全の論理に関する議論とロードマップに関する検討状況について中間報告を行い、あわせて中越沖地震に対する事業者、国における取り組みの進捗状況について報告する。

以 上